

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2021年 8 月 14 日
東村山議長 あて

議席番号 11 番
質問者 山口 みよ

記

一 補聴器購入費用補助を

70歳以上の高齢者の約半数が加齢性難聴になると言われています。聞こえづらくなることで、人と話すのが億劫になり外出を控えるなど孤立化が進み、認知症へのリスクを高めることになっています。東村山市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画基礎調査の中で、「外出を控えている」の理由に「聞こえの問題」が15.3%もありました。

日本共産党都議団が2019年に行った「補聴器と難聴のアンケート調査によると、補聴器を購入しない理由の第一位が「価格が高い」でした。平均で30万円です。補聴器は装着してすぐに使えるわけではなく専門家による調整が必要ですが、そのことを十分知らされず、とりあえずネットなどで2～3万円の補聴器を買ったが雑音が聞こえ、人の話が聞き取りづらいなどと使っていないという声もありました。

日本では補聴器購入の公的補助は障害者手帳を持つ重度の難聴者に限られています。欧米諸国では医療の問題として補助が行われているため、難聴の人の補聴器所有率は、イギリス47.6%、フランス41.0%、ドイツ36.9%、アメリカ30.2%ですが日本は14.4%です。

1. 聴力検査による早期発見を

- ア、健康診査の項目に聴力検査を入れることはできないかがう。
- イ、市内で聴力検査を受けられる医療機関は何か所あるかがいます。
- ウ、医師会と聴力検査導入について検討したことはあるかがいます。
- エ、導入した場合の市の予算額はいくらになるかがいます。

2. 聞こえの相談窓口設置と周知を

- ア、補聴器は装着してすぐ使えるものではなく、一人一人に合った調整が必要です。認定補聴器技能者による相談や調整を受けられるような相談窓口を設置できないかがいます。
- イ、認定補聴器技能者による「難聴のことや補聴器についての市民向け学習会」

を検討できないかがいます。

3. 早期の補聴器使用を進めるために

ア、アンケート調査で補聴器購入をしない理由の第1位が高額だからとあります。

東京都は区市町村の判断で補聴器購入助成をすれば、都の包括補助（高齢者施策経費の2分の1を都が補助）を活用できるとしています。

高齢難聴者への補聴器購入助成を実施すべきと考えますが見解をうかがいます。

二 コロナ感染の自宅療養者に市としてできることは何か

東京都内で8月上旬の1週間で救急隊がコロナ感染者を搬送できなかったのは出動数の6割、約1000件もあったということです。理由は受け入れる病院が見つからないため本人があきらめたか、高熱でも自宅療養の指示が出て搬送されなかったかです。搬送できても5時間以上かかったのは709件のうち52件あったと報道されています。在宅で治療も受けられなくなるケースも出ています。感染拡大が進む中で東村山市として感染対策をどのように進めていくのか伺います。

1. 市内の感染状況を伺います。

2. 宿泊療養者が少ない理由を伺います。

3. 自宅療養者が8月7日から大幅に増え毎日150人を超えています。

自宅療養をされている方がどのように過ごしていらっしゃるかを市として、把握しようと努力している内容を伺います。

4. 市として自宅療養されている方への対応策があれば伺います。

5. 多摩小平保健所長、東村山医師会長、コロナ感染者を受け入れ協力していただいている病院長などと、市内の感染状況、受け入れ態勢、自宅療養者への対応など意見交換会などを行っているか伺います。

6. 自宅療養者の不安を軽減するために、本人からの相談や申し出により支援を行うために、電話などによる市独自の自宅療養者支援窓口を設置することは検討できないか伺います。

7. 「感染症対応緊急ヘルパー派遣」や「食糧支援」などの設置も併せて検討できないか伺います。